

6. ^{201}Tl SPECT にて集積を認めた前頭骨 Histiocytosis X の 1 例

L. Flores 星 博昭 長町 茂樹
 大西 隆 渡邊 克司 (宮崎医大・放)
 杉山 剰 直井 信久 澤田 惇
 (同・眼)

症例は 11 歳女性で、左前頭部痛、流涙を主訴に来院した。頭部 CT にて左前頭骨の破壊があり、頭部 MRI 上、 T_1 強調像にて低信号、 T_2 強調像にて高信号、Gd-enhance 像にて辺縁部を強く造影される腫瘤像を認めた。 ^{201}Tl SPECT 上は early 像 (静注 20 分後)、delay 像 (静注 4 時間後) とも、腫瘤に一致して強い集積が認められた。生検、病理組織学的に Histiocytosis X と診断された。塩化タリウムは悪性のみならず一部の良性骨、軟部腫瘍にも集積することは知られているが、鑑別診断に Histiocytosis X も考慮する必要があるものと思われた。

7. ドプタミン負荷タリウム心筋シンチグラフィの臨床経験

西川 卓志 二見 繁美
 (宮崎県立日南病院・放)
 平野 秀治 田口 利文 松尾 剛志
 上田 正人 (同・内)
 長町 茂樹 渡邊 克司 (宮崎医大・放)

虚血性心疾患患者の評価において運動負荷タリウム心筋シンチグラフィは有用であるが、四肢麻痺等により運動負荷が不可能な症例が存在する。今回われわれは虚血性心疾患が疑われ、運動負荷が不可能であった 10 例に対しドプタミン負荷心筋シンチグラフィを施行し、その有用性と安全性について検討した。ドプタミン負荷にて脈拍は増加傾向を示したが、血圧には大きな変動はなかった。10 例中 5 例には冠動脈造影を施行したが、ドプタミン負荷心筋シンチグラフィ所見と比較的よく一致した。ドプタミン負荷にて 10 例中 1 例に心房粗動を認めしたが、ドプタミン滴下の中止にて速やかに回復した。ドプタミン負荷心筋シンチグラフィは運動負荷不能患者において、比較的安全で有用な検査と思われる。

8. 糖尿病患者における ^{123}I -MIBG 心筋シンチの検討

長町 茂樹 星 博昭 大西 隆
 渡邊 克司 (宮崎医大・放)
 中津留邦展 年森 啓隆 松倉 茂
 (同・三内)

糖尿病 (DM) 患者の ^{123}I -MIBG (MIBG) 心筋シンチ所見の特徴と臨床所見との関連について検討した。対象は DM 16 例 (男性 10, 女性 6), 平均年齢 57.5 歳で罹病期間は 1~22 年 (平均 7.4 年) で糖尿病性神経障害 ($\text{CVR-R} \leq 2.0\%$) の有無により神経障害陽性群, 神経障害陰性群に分類した。検査は MIBG 111 MBq 静注 20 分 (early), 4 時間後 (delayed) に 3 検出器型ガンマカメラ 9300A (東芝) を用いて施行した。神経障害陽性例では高頻度に early, delayed 像いずれも MIBG の前壁, 後下壁への集積低下を認めたが, 神経障害陰性例においても前, 後下壁の集積低下例を認めた。DM では臨床的には軽症な症例でも, 心障害を有する可能性が示唆された。

9. $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI 心筋シンチグラフィの正常像

新里早奈枝 勝山 直文 小川 和彦
 大兼 剛 鷺野谷 利 堀川 歩
 諸見里秀和 山口慶一郎 中野 政雄
 (琉球大・放)

93 年 10 月より運動負荷心筋シンチグラフィの放射性医薬品を ^{201}Tl から $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI に全面的に変更した。従来の ^{201}Tl 法に比し胸壁や乳房の影響が少なく, 良好な画質が得られた。今回われわれは虚血性心疾患が疑われたが正常心筋イメージを呈した症例を対象に心筋摂取率 (心/縦隔) および相対的局所心筋摂取率について検討したので報告した。

10. 肝切除術前後のアシアロ糖蛋白レセプターの検討

大園 洋邦 石橋 正敏 森田誠一郎
 梅崎 典良 早瀬 尚文 (久留米大・放)
 平城 守 君付 博 黒脇 敏彦
 山下 裕一 (同・一外)

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA を用いて肝細胞におけるアシアロ糖蛋白レセプターの動態を検討した。対象は, 肝癌 15 例 (肝区